

# Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

## 首都西北部の小児・周産期医療のとりで

### ⑬② 東京北医療センター（東京都北区）



高台にゆったりと立つ東京北医療センター

JR埼京線北赤羽駅から環状8号線を渡って歩くこと数分、高台に大きな建物がある。改修中の防護柵のあちこちでは、病院のイメージキャラクター「あおばねくん」が救急箱を手にいろいろなポーズで迎えてくれる。

東京北医療センターが開院したのは2004年。同所にあった国立王子病院跡地に建てられた新病院の管理運営主体が公募され、公益社団法人地域医療振興協会が選ばれた。14年に同協会が国からの譲渡を受けるとともに、名称も現在のものになった。

診療科は26科。地元・北区の要望を尊重する形で小児医療と周産期医療に力を入れており、24時間の救急搬送に対応するなど、周囲からは公的病院並みの信頼を得ている。「隣接する区立公園にも扉一つで出入りできる。病院として地域に根付いている象徴の一つ」と雨宮稔・経営企画室長。

周産期医療では、分娩数が年間約1100件。病院全体の病床数が280床の規模としてはかなり多い。救急搬送は北区からだけではなく、足立区、豊島区、そして埼玉県南部からも行われる。

地域の開業医や行政との連携も重視する。開



院内には児童画家・安藤勇寿氏の連作『少年の日』の数々の作品が飾られている



病棟の間接照明は暖色系の凝ったデザイン



3階の屋上庭園は緑豊か。四季折々の風景が楽しめる



デイルームからの眺望も心和む



小児科病棟のプレイルームも30平方メートル以上で充実



オリジナルキャラクターの「あおばねくん」

業医との連携は「ふたり主治医制」と表現し、症状の程度により医療機関を使い分けてもらう。クリニックからの要請があった場合には、「ドクターカー」に医師が同乗の上で迎えに行く。行政とも定期検診や小児検診、予防接種など医師の確保が難しい分野を中心に協力関係を築いている。

施設面で目を引くのは豊かな自然を生かしていること。3階の屋上庭園は以前、畑もあったというほどの日当たりの良さゆたつとした広さが患者を和ませる。

病棟では5階西病棟を小児科に充てており、病

気を患った子供たちの心身のケアに携わる「医療保育士」も詰めている。

全館合わせて200以上の作品が飾られているという児童画家・安藤勇寿氏のほのぼのとした絵画もホッとさせる雰囲気醸成している。

忘れてはいけないのが「あおばねくん」。最寄りの「赤羽」をもじったものだが、来院者らの人気を集めている。近いうち、グッズ化する予定だ。

現在、4階建て(63床)の新棟を建設中で、17年春には稼働予定。さらに地域医療への貢献を深めていく。